

# 追悼 大井際断老師



去る平成三十年二月二十七日、臨済宗最長老の僧堂師家、大隠窟・大井際断老師（大本山方広寺派管長）が、一〇三歳にて遷化された。

大正四年（一九一五）兵庫県西宮市にお生まれの老師は、昭和十五年（一九四〇）東福僧堂に掛搭、戦役を経てのち、東福寺の家永一道老大師に参じて嗣法。花園大学教授を経て、万寿僧堂師家（昭和三十五年）、妙心寺塔頭東海庵住職（昭和五十年）を歴任され、方広寺派管長・僧堂師家として平成二年から長きに亘り宗門を牽引されてきた。また、ドイツを中心に欧州各地での布教や、社会活動にも積極的に関わられた威徳により、禅文化研究所から「禅文化賞」功労賞を贈呈させていただいた。このたびの訃音に接し、縁ある方々より一文を賜わり追悼の意を表したい。

（季刊『禅文化』二四八号平成三十年四月二十五日掲載文より転載しました。）

薪  
流

### 本 部

〒616-8035  
京都市右京区花園妙心寺町53  
養徳院内 横江 桃園

### 発 行

〒509-0301  
岐阜県加茂郡川辺町下麻生1998  
大雄寺内 大野 祥雲

### 編 集

〒430-0838  
静岡県浜松市南区鼠野町48  
龍泉寺内 薬師寺 良晋

薪流会ホームページ  
<http://www.shinryukai.jp/>

### 印 刷

〒505-0021  
岐阜県美濃加茂市森山町1-1-34  
有限会社 永田印刷

### 目 次

追悼 大井際断老師	西村 惠信	1
大隠窟老大師最後の提唱	横江 令澄	2
恩師 大井令順先生を悼む	保子 令謙	4
深謝す 大願管老漢	向 啓	7
わが師 大井際断老大師を偲んで	野田 正彰	8
現代に生きる禅僧	池谷 啓	9
新総裁就任報告	総裁、副総裁を偲ぶ会	10
薪流会講演会「戦争と罪責」		11
平成二十九年年度研修会		11
託鉢報告		25
浜松支部		26
決算報告		27
色紙案内・編集後記		28

# 大隠窟老大師最後の提唱

平成三十年二月二十四日夕刻の半僧坊浜松別院本堂。

当日の講座は『無門関』第二十九則「非風非幡」であった。

六祖、因みに風刹幡せつばんを颺あぐ。二僧有り、対論す。

一は云く、「幡はた動く」。

一は云く、「風動く」。往復して

曾かつて未だ理に契わす。

祖云く、

「是れ風の動くにあらず、是れ幡の動くにあらず、  
仁者にんじやが心動くのみ」。二僧しやうぜん慄然たり。

無門曰く、

「是れ風の動くにあらず、是れ幡の動くにあらず、是れ心の動くにあらず。甚いづれの処にか祖師を見ん。若もし者裏しやりに向かつて見得して親切ならば、方まさに二僧、鉄を買って金を得るを知る。祖師忍俊不禁にんしゆんふきんにして、一場いちじょうの漏逗ろうとうなり」。

頌に曰く、

風幡心動、一状に領過りょうかす。

只ただだ口を開くことを知って、話墮わだすることを覚えず。

(西村恵信訳注「無門関」、岩波文庫より)

老師は素説が終わると、いつも高座から本堂内をグルリと御覧になる。この日の会衆は僧俗合わせて十数名。老師は「今日は少ないねえ」、ポツリと呟くように仰つて、又、講本に目を移された。

浜松別院の禅会は、大隠窟老大師が方広寺へ見えられた翌年、平成三年から始まった。本山の行事など諸般の事情で年に数回、休講になることはあつても、老師は別院へ出講されることを楽しみにさ

れていた。聴講者の多数に拘わらず、二十七年の長きに亘つて禅会が継続されてきたのは老師の師家としての、教育者としての老婆親切の賜物であろう。当日の講座の末席に座つて、私はそんな事を考えていた。

「ハイ！本講はこれまで！」老師の声が本堂内に響き、直日が印金一声鳴らす。四弘誓願が唱和され、この日の講座が終わった。

この日、小雨が降り出しそうなか、侍者が運転する車に乗り込む老師の後ろ姿が、心なしか何時になく寂しそうに見えたのは私だけであろうか。

平成三十年二月二十七日の未明、大隠窟老大師は忽然と遷化された。別院禅会での老師の講座は、この娑婆世界での講了となったのである。

薬師寺 良 晋

# 恩師 大井令碩先生を悼む

西 村 惠 信

今朝、禅文化研究所に出講して、恩師・大井令碩先生こと奥山方広寺派管長の大井際断老師

が、実に百三歳の長寿を全うして遷化されたことを仄聞した。平素はすっかりご無礼に打ち過ぎていたにもかかわらず、老師の訃報を聞いて、もうあの頭のとっぺんから飛び出すような老師の訃報に接する機会が無くなってしまったのかと、常になく淋しい気がしてならないのは、私だけであろうか。

平成二十六年(二〇一四)十月十日、禅文化研究所は記念すべき創立五十周年を挙式し、九十九歳にして今日なお雲衲の指導をされておられると聞く方広寺派管長の大隠窟大井際断老師に、不遜にも研究所として四人目となる「功労賞」を差し上げることになった。その日老師にはご老体に鞭

打つてご来京いただき、壇上から声高らかに一段のご挨拶をいただいた。祝辞の結びに、あの元氣な張りのあるお声で、専門道場の行儀よろしく、「はい！」とホールいっぱいの方令をされたのが最後となった。

あれから更に四年、老師は足利紫山老師の百一歳という長寿記録を更新し、方広寺派歴代管長の長寿新記録を残してついに今朝、鬼籍に移られたのである。

私自身は何度か方広寺に老師をお訪ねする機会があったが、そのたびに老師の口から決まって、「この山の自然が私に合うらしい」と得意げにおっしゃったから、遠州奥山の大自然こそが、老師の長寿をあらしめた、ときえ言えるのかも知れない。

ところで大井際断老師という方

は、私にとって高く仰ぎ見る大本山の管長さんというよりも、できれば肩の一つも揉んで差し上げておけば良かったものと、今更ながら悔やまれるほど、懐かしくも懐かしい大学時代からの恩師であつた。

私が先生から初めて禅学の教えを蒙ったのは昭和二十九年(一九五四)、実に今を去ること六十四年前、私がまだ花園大学三回生の時であつた。先生は現在のJRが煙を吐いて走る蒸気機関車であつた頃、西宮の自坊茂松寺から東海道線、更に京都で山陰線に乗り換えての二時間、花園大学仏教科の禅学の教授として通つておられた。

今、コンピュータで先生の経歴を拝見すると、先生はちようどその頃、第二次大戦で全焼した自坊茂松寺の復興を成し遂げ、新築成つた自坊から、かつて若き日に修行した大本山東福寺の専門道場に通参し、当時の師家であつた家

永一道老師の室に投じて、白隠公案禅の調べをおおかた尽くされていた頃に当たる。あるいは家永一道老師が愛知県犬山の瑞泉寺に隠栖されると、これを追つて犬山に転錫し、遂にその印可を得られた頃であろうか。

そんなこととは露知らず、私たちは毎週一度、京都駅の山陰線ホームで先生の姿を見て挨拶し、先生から親しくお話を伺つたものである。先生の出で立ちは一貫して墨染めの改良衣に下駄履き。瘦せた肩を張つておられたのが印象的で、そのお姿が今も眼底にある。

殊に今も私の脳裏に焼き付いている大井令碩先生のイメージは、書物をぎゅんぎゅんに詰め込んだ、茶褐色の革の四角い手提げ鞆を持たれた姿である。実際に講義するに当たつてそれを取り出すわけでもないのに、なんであんなにたくさんさんの重い本を持つてこられるのかと、私はいつも不思議でならなかつたものだ。

三回生になってようやく先生から、禅学の特講義として、東嶺禅師の『宗門無尽灯論』の講義を聴いた。「向上の修（自利）を究めてから、向下の修（利他）へと向かうのではない。向上（悟りへの修行）は常に向下（衆生済度の慈悲行）」とともに、向下は常に向上とともになければならぬ」と話されながら、黒板に描かれた梯子の図が鮮明に記憶にある。私も十年ほど前、大学院の演習で『宗門無尽灯論』をテキストとしたが、若き日の大井教授を懐かしむこと、またしきりであった。

その他にもう一科目、どういふわけか先生から教育学を習った。こちらはオオカミに育てられた人間の赤ん坊の話しか記憶に残っていない。その頃、大井先生のご兄弟が三重大学の教授であられることを聞いて、同じ坊さんでも京都大学哲学科を出られたらしい先生には、やはり学問志向の血が流れているのだろうか、などと思つたものである。

昔の花園大では春秋二回、大学大根心というのがあり、妙心寺の法堂を禅堂として全学生（と言っても総勢二百名ばかりであった）が三日間の根心をした。大井先生はこの根心を統括する直日という大役を担当されたが、警策を担いで法堂のなかをゆつくりと歩かれる大井先生の、ややヒステリックな罵声には、内心辟易したものである。

四回生になって、私は久松真一先生を指導教授に選び、「禅の実存とキエルケゴールの実存」と題した原稿用紙百枚の卒業論文を提出した。十日ほどして口述試問というのがあり、虎の尾を踏む思いで教室に入ると、久松教授の傍らに大井先生が座っておられて一驚したが、大井先生は終始沈黙を守られ、九十分のあいだ一言も質問をされなかった。後で大井先生が京都大学で、久松先生の門下生であったことを知って、宜なるかなと思つたらしいのである。

その後、大井先生とは疎遠になったが、いつしか先生が、大分の万寿寺に師家となって入山されたことを聞き、へえー大井先生は老師であったのかと、今更ながら懼れ戦った。こうして我らの大井先生は、「大隠窟」の室号を持つた専門道場の師家となられ、私からは遠い存在の人となつてしまわれた。しかしそれから十五年すると、大井際断老師は妙心寺山内の東海庵住持として、今度は大学の近くに帰つてこられたのである。

ちょうどその頃、私は花園大学から衣笠山麓にある立命館大学衣笠学舎に、英語と宗教学の非常勤講師として週一回通つていたので、これ幸いと毎週、立命館大学からの帰り、妙心寺境内の石畳を踏みしめ、東海庵の玄関に「頼みましよう」を掛け、お忙しい大井老師に入室参禅を聴いて貰った。

あの頃の私は今と違つて公案参究に真剣であつたし、際断老師もこの時はかりは平常と一線を画して、容赦なく私を叱咤してくだ

ほんとうの「安心」は、ここにあります。

信頼される安心を、社会へ  
SECOM

Security by  
SECOM セコム  
ホームセキュリティ

お寺のセキュリティもセコムにご用命ください。

セコム株式会社 TEL. 0120-025756 (24時間・年中無休)



さった。当時、東海庵に随侍していた人たちは、私の参禅に続いて喚鐘を叩かれたが、これがあの人たちにとつて迷惑ではなかったか、あるいは参禅の好機になったか、聞いてみたことはない。

方広寺へ入られた時、私も晋山式のお祝いに駆けつけた。驚いたのはその席に数人の青い眼の人たちが混じっておられることであつ

た。そして初めて、大井老師がいまや国際派の老師であることを知ったのである。ドイツを中心にヨーロッパに巡錫された老師は、この時こそと、若い日にとつた杵柄を存分に振るわれたことであろう。因みに老師をヨーロッパの禅会に紹介したのは、時の永源寺派管長・関雄峰老師であつたと聞いている。

この老師が提唱において学術書を探り出して解説したり、またしばしばドイツ語を用いて禅を語つたりされることは、ある意味で異様であつたかもしれないが、自己を「大隠」と名乗られている老師としては、むしろ本命であつたであろう。

そもそも際断老師の室号である「大隠」というのは、「小隠」が山の奥深く隠栖することに対して、十字街頭の真つ只中に出て衆生済度するの語であるから、大隠と号する際断老師にし

て奥山の山中に隠栖していたのでは、名に恥じるといふものがある。やはり大隠と号する以上、全世界の只中に出て禅を標榜すべきが、老師の真骨頂でなくてはならなかつた筈であろう。

今朝、編集子の依頼を受けて、あれこれ思い出すままに、在りし日の大隠窟老師について、追悼の一文を草したが、もとよりこれが学徳兼備の老師の面目を、いささかなりとも汚すものであつてはならない、と自戒してのことである。願わくは老大師が定中にあつて、なお莞爾として昭鑑し賜わんことを。

百拜。  
〔にしむら・えしん／花園大学名誉教授・元学長〕

（季刊『禅文化』二四八号平成三十年四月二十五日掲載文より転載しました。九ページまでの文章です。）



大本山天龍寺塔頭院宝蔵院本堂落慶前庭作庭

—文化財指定庭園保護協議会賛助会員—



天龍寺  
東福寺  
石 福

御用達 日本造園技術研究所

株式会社 曾 根 造 園

〒603-8487 京都市北区大北山原谷乾町255-6  
Tel.075(462)6058 Fax.075(463)5526  
Url <http://www.sone-zoen.co.jp>  
Email:hogan@mbox.kyoto-inet.or.jp

# 深謝す 大隠窟老漢

横 江 令 澄

去る三月一日の午前十時頃、新名神高速道路を方広寺派管長大井 際断老漢の通夜・密葬に向かつて いる時に、禅文化研究所編集部よ り電話がありました。「大井際断 老師遷化に当たり、遺弟として何 か追悼文を書いて欲しい」との一 報でした。私なんぞが烏滸がまし くて書けないと固辞したのですが、 元花園大学学長の西村惠信先生の 厳命だと言われますので、恥を忍 んで僭越ながら拙文を提すること と決意した次第であります。

先師大隠窟老漢は奇しくも二月 二十六日が誕生日であり、満百三 歳をキツチリ終えての大往生であ りました。綿密底の老漢に相応し い最後と思えてなりません。

私が先師の元で得度させていた だいて、今年でちょうど半世紀とな ります。五十年前の高校二年生の夏

休みに出家希望の想いを抱き、京 都駅から夜行列車で大分の万寿僧 堂まで十二時間程かけて行きまし たことを思い出します。老漢は初 相見の折に「禅宗の修行は我慢と 忍耐であり、厳しいの一言に尽き る」と、そのような話をしてくだ さったように記憶しております。次 の日から毎晩、薬石後から開枕ま での間に小一時間ほど直々に誦経 の特訓指導をしていただきました。

老漢は四十五歳にして万寿僧堂 師家に就任。還暦の歳に妙心寺塔 頭東海本庵に入寺、さらに七十五 歳になられ方広寺派管長として晋 山されたのであります。私は東海 庵時代に約十年間、侍者としてお 仕えさせていただきました。朝参 暮参する日々、鉗鍬をたまわった のであります。

老漢は「禅僧はできる限り僧堂

生活に近い日常を勤めなければな らない」というお考えでありまし た。当時、東海庵には老居士のほ か雲水見習いが二名、花園大学の 学生が二、三名、花園高校生一名 ほどが常住しておったように思っ ますが、月に数回は托鉢に出てお り、老漢も二回に一度は必ず托鉢 にお出ましでした。ある冬の寒い 日に托鉢に出かける時のことであ りますが、玄関に老漢用の草履と 網代笠を用意しませんでした。そ の日は取りわけ凍てつく寒さであ りましたので、ご配慮申し上げた のであります。

老漢は玄関にお見えになるや間 髪をいれず「馬鹿者！」と。「ワ シの用意ができておらん」と、烈 火の如くお怒りになられました。 それは、托鉢をせよと言った以上、 自分も無条件で頭陀行を実践する、 ということであつたのです。老漢 は宗門にあつては「学者肌タイプ」 の虚弱体質のように噂されること がありました。決してそうでは なく、弟子たちに対して、信念強

各 大 本 山 御 用 達

兵 助 法 衣 店  
老 舗

## 草 木 兵 助 法 衣 店

〒604-0024 京都市中京区衣棚通御池上る下妙覚寺町

京都 (075) TEL 221-0934 (代表)

FAX 241-0773



薪流会 10 周年記念 大隠窟総裁米寿を祝う会

固な師でありました。私ほど何かにつけて叱られた弟子はいなかつたと思います。五十年の間には激怒されたことも数度あったように思い起こします。

平成五年(一九九三)に、「薪流会」(仏教者の本旨である「上

求菩提・下化衆生」の実践を目的とする宗派を超えた会)を兄弟弟子と東海庵時代の道門縁者で立ち上げた時には、大変喜んでいただきました。「上求菩提・下化衆生」の本願にあつて、もつとも肝要なことは、「上求菩提」の修行があつてこそその「下化衆生(社会的貢献活動)」があるとお論しくださつたことでもあります。

その時のお顔は、眼光鋭い中にも優しい目差しが相俟つていました。大いに励まになりました。

三月一日の夕刻、浜松市内の齋場にて収骨をしたのですが、骨壺が少し小さ目だったので、骨壺が少し小さ目だったので、各位の収骨後に御遺骨が残りました。私は思わず両手で掬いあげ骨壺に押し込めたところ、どこからか「馬鹿者！」という声があったのです。それは何かしらあたたかな気がする出来事でした。たぶん、私にだけ聞こえた声なのでしょう。

余りにも多事多難な五十年を振り返つて、慚愧に堪えないことばかりであつたと思います。師の教えを行住坐臥忘却することなく、今後の人生を生き抜く新たな決意をした、お師匠様の遷化でありました。

〔よこえ・れいちょう/妙心寺塔頭養徳院住職〕

## わが師大井際断老大師を偲んで

保 子 令 謙

平成三十年二月二十七日午前二時五十七分。満百三歳をもって、わが師大井際断老大師が突然遷化されました。まさに巨星墜つ。ご高齢でおられましたので、いつかはと恐れておりました。とうとうその時が来てしまったのだとご遷化の報を受け止めました。

私が妙心寺東海庵において老大師に弟子入りできたのは、いまから四十一年前のことでした。振り返りますと、私は小学生の頃から老大師の受業寺である西宮の茂松寺の門前広場でよく遊んでおりましたが、当時はもちろん際断老大師のご縁はありません。

時は過ぎ大学生となつた頃には私は禅に興味を持ち、当時妙心寺の霊雲院で行なわれていた FAS 協会(久松真一博士を中心に発足した学行一致をめざす会)の坐禅会に通つていました。卒業間際には出家の意志を固めつつあつたのですが、出家のやり方が全く分からず、また冷静に判断する期間も必要と思ひ、大阪の会社に就職しました。二年半が過ぎましたが、やはりサラリーマンの生活には満足できませんでした。そんな時、東海庵で坐禅会が開催されていることを知り、早速通い始めた私は、そこで老大師にお目にかかつたの



です。

さて、坐禅会にも慣れた頃、当時老大師の隠侍をしておられた現・妙心寺養徳院和尚の助言を得て弟子入りを願いましたが、両親の同意が必要とのことで、老大師はすぐには許可されませんでした。それでも何とか弟子入りを果たしたはじめての徒弟生活には、多くのカルチャーショックがありました。

なかでも降雪の極寒の早朝の出来事。老大師も素足に草鞋履きで乞食の托鉢行に同行されたことが驚きでした。大阪へまた神戸へとご老体にも拘わらず、我々のような二十代の弟子たちと、です。普通なら炬燵で暖を取っておられてもと思いましたが、老師の誠実にして清貧な人格に触れ、深く感銘したことが思い出されます。

東海庵在庵当時、現在は宗門を支える方々がまだ雲水として、あるいは居士大姉や花園大学生として出入りされています。老大師は広く縁を結ばれ、まことに人天の長老として

慈悲深く平等に対応しておられました。長年にわたる教化誠に  
お疲れ様でしたと申し上げ、残  
寺(岐阜県可児市)住職

## 現代に活きる禅僧

向 令 孝

「有難う！」「結構！結構！」

晩年の大井際断老師は、側近の雲水や和尚、ヘルパーの女性、あるいは周りの自然や食べ物への感謝と賞賛の言葉に終始され、身近でお世話させていただいた者はみな、心が軽やかになり元気をいただきました。

大正四年(一九一五)二月二十六日に西宮の茂松寺にお生まれになり、満百三歳を迎えられた翌日の平成三十年二月二十七日に急性肺炎で突如遷化されたのです。三日前には、高町別院で『無門関』の提唱をされていたのですから、見事な最期と言うほかありません。

このお言葉の通り、老師は、

五十年続いている居士の禅会・裁  
松会しょうかいの指導、ドイツでの参禅指  
導しんりゅうかい、薪流会……と、方広寺派管

長の重責を担いつつ専門道場の師家として雲水を摂化されながら、禅の大衆化にも鋭意、力を注がれてきました。興味深いのは、葬式仏教も禅の大衆化にとって大切だから、大いに力を注ぐべしと述べられていることです。

伝統・革新、枯淡・モダン、葬式仏教・ソーシャル・ブディズム等の、言葉による分別にとらわれることのない、すべてを包含してなお余りある禅の根源的力を発揚され、大機大用を尽くされて、百三歳の天寿を全うされました。

「現代に活きる禅僧」のお手本と仰ぐべき、まことに見事なご生涯でした。

「むかい・れいこう／方広寺派祥光寺(静岡県浜松市)住職」

幸いに、方広寺に移られてから老師が書かれた原稿「いのちと自由」が手元にあるので、一部を遺戒のつもりで拝読したいと思います。

禅は参ずべし、説くべからずであり、禅問答は、高級の禅学と修行がなければ到達するこ  
とが出来ない。禅の実践は一般大衆には厳しすぎて、特殊な宗教者に限定されている。精神的特権階級の人々にもみ開かれる、この様な現在の禅仏教には大衆性はなく発展はない。将来の禅は、もつと敷居を低くして、一般に開放する寛大さを持たねばならない。

# 薪流会新総裁 就任報告

## 新総裁

### 雪丸令敏 老 大 師



## 略 歴

昭和十二年四月二十日、鹿児島県揖宿郡穎娃町（現・南九州市穎娃町）出身。

昭和三十三年、大分市萬壽寺の大井際断老師について得度し、静岡県引佐郡（現・浜松市）の方広僧堂に掛搭。

昭和三十六年、京都の妙心僧堂に転錫。近藤文光老師、松山寛惠老師に参じる。

滋賀県安土の摺見寺住職を経て、平成六年、妙心僧堂師家に就任。岫雲軒と号す。

平成三十年二月二十七日、大隠窟 大井際断老師の御遷化に伴い、暫くの間、弊会総裁が空席となつて居りましたが、平成三十年六月一日付けを以て、弊会総裁に妙心僧堂師家 岫雲軒 雪丸令敏老師が就任されました。右、謹んで御報告申し上げます。

薪流会 総 裁 大隠窟老 大 師 並びに  
副総裁 巨関窟老 大 師 を偲ぶ会

と き 平成三十年四月十四日（土）  
と ころ オークラアクトシティホテル浜松 浜松市中区

今年二月に遷化された、弊会総裁大隠窟老大師並びに昨年九月に遷化された弊会副総裁巨関窟老大師を偲ぶ会を、妙心僧堂岫雲軒老大師、妙興僧堂孤雲室老大師、妙心寺派宗務総長栗原正雄師、方広寺派宗務総長巨島泰雄師、二十五周年記念講演会講師の野田正彰先生ほか僧俗四十一名にて厳修致しました。

開会に当たつて、岫雲軒老大師

の導師により総裁・副総裁の遺影に向かつて、大悲呪一巻で回向。

名誉会長横江桃國師の献杯の挨拶後、参加者一同で二老師を偲びました。

来賓の地元選出衆議院議員城内実氏が総裁猊下との思い

出を披露して会に花を添えました。

また、浜松在住のグエン・ビル・

バハド氏が、ネパール・チャリス

村復興支援の現状報告を行い

「チャリス村では、住民みんなが

薪流会の和尚様方の来訪を心待ち

にしています」と、現地への視察

訪問を要請されました。

参加者の皆さまの和やかな雰囲気

のまま弊会会長大野祥雲の挨拶

を最後に、偲ぶ会を閉じました。



新流会25周年  
記念講演会

# 「戦争と罪責」

野 田 正 彰 氏

時／平成三十年四月十四日(土)  
於／アクトシティ浜松コンgresセンター

## 歴史を振り返る

いま明治百五十年と騒いでいます。私たちの社会は、歴史を振り返る事に於いても肯定的にかつ作り話をしながらやってきたのであって、反省的に振り返るということは乏しかったといえます。

同じ敗戦国であるドイツと比較すると、同じ七十年の歩みが、こんなにも違ってしまったのか、とつくづく思います。ドイツへ行くたびに、この国は努力して変わっているんだなと分かります。たとえば、日本の大学や教育の中で、自分の大学が戦前、そして戦争中、何をやったかということ振り返っている大学はほとんどありません。

戦争中、九州帝国大学医学部は

アメリカ兵の生体解剖をやりました。これは遠藤周作の小説になっ

て、罪の問題という文学的なテーマにされています。フォーカスされることによって、九州大学というのはどういう大学であったかを考えさせないようになっているという面があります。これを私は焦点効果と言っています。当時の九州大学全体が陸軍と強い繋がりを持っていて、そういう中で生体解剖が行われていたという社会的文脈の中で問題を理解できていない。人間として許されないことを偶々やってしまった、そういう象徴的な話になってしまつて、当時の九州大学



全体の状態だとか、根本的な問題から視点がずれてしまっているのです。

## ミュンヘンの白バラ

南ドイツのミュンヘン。バイエルン州の首都です。そこで起こった抵抗運動「白バラ」について見てください。

### 禅の妙相

大本山妙心寺・臨濟宗各御本山御用達

御袈裟法衣 莊嚴仏具調進司

## 後藤新助法衣仏具店

妙心寺門前

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地  
電話(代表) 075-462-3915/FAX 075-462-3616  
URL <http://www.rinzai.jp>

駐車場完備

一九四三年の二月に「白バラ (Die Weiße Rose)」という秘密

運動がありました。ナチのユダヤ人虐殺行為に対して「戦争をやめろ」と訴えたシヨル (Scholl) 兄妹。

お兄さんが医学部の学生、妹さんが文学部生だったんですが、この二人と数人が集まって、戦争反対のピラを作っていたのです。大学の本部でピラまきをして、四回目に

のときにナチの党員であった大学職員に捕まり、彼らは教授も含めて五人が首切り死刑になっていま

す。

その「白バラ」を記念して、大学本部の講堂に入ると「白バラの記念室」と書いてあって、常に白

バラが飾られております。中には殺された人たちの生い立ち、書籍

記録が掲示してあり、ミュンヘン大学の戦後の出発には、このシヨル兄妹の姿勢から自分たちの新しい

大学を始めるんだということを書いたパネルが貼ってあります。そして大学本部の広場や電車の停留所にも白バラの広場という名前

が書いてあります。日本の大学とどんなに違うことか。

ついこの間も京大で、学長室に「学徒動員」の絵があるのがどうのこうのと問題になって、「その程度のこと、どこが悪いんだ」と

言っておりますけれども、京都大学においても戦争を煽ったという

ことについては、振り返る姿勢はありません。

仏教教団も同じです。確かに浄土真宗などでは、一九八〇年代にな

って、ようやく戦争協力反省声明

が出ておりますが、それまで何をしていたのか。日本の

多くの戦争問題は、軍部によって強いられた、協力させられたという言い

訳を常としています。ミュンヘン大学

をやっております。ベルリンには、「虐殺されたヨーロッパのユダヤ人のための祈念

碑」があります。殺されたユダヤ人たちを思い、ナチの戦争を思

うという広場が、ベルリンの国会前近くの大切な場所に作られました。

これはドイツの統合後に行われた事業です。ブランデンブルク門の一等地に、黒いコンクリートの

ブロックを林のように並べた広場をつくって、その地下には殺さ



寺院仏像仏具 製造 修理 販売



有限会社 天真堂中央社寺工藝社

〒 451-0031 愛知県名古屋市西区城西1丁目10-21  
TEL 052-532-0607  
FAX 052-532-0608

http://tensindo.co.jp  
E-mail info@tensindo.co.jp

れた六百万といわれるユダヤ人の、  
生まれた日と亡くなった日、名前  
が読み上げられ続けられ、いまも  
ずっと続いています。

あるいは、ドイツ建国を象徴す  
る場所（衛兵門）の建物のなかに  
は、女性の彫刻家ケーテ・コルヴィ  
ツがつくった、「倒れた息子を抱  
くピエタの像」が置いてあります。

これが新ドイツ建国のシンボルで  
す。そこには、「我々は反省しな  
ければならない」と書き出し、こ  
の戦争で殺されていったユダヤの  
人たち、ジプシー、ロマの人たち、

あるいは政治家、学生等の人々を  
並べて書いてあります。ドイツが  
統合されて最初のシンボルです。  
そういう反省の中で、これから私  
たちの国を作ろうということなの  
です。

「お父さん、お母さん、  
何をしていたの？」

一九七〇年代初め、ハイデルベ  
ルグでカフェに座ったりしている

と、ドイツのおっちゃんが寄って  
来て、「おまえはヤパーナ(日本人)  
か、今度やるときには弱いイタリ  
ア人を抜きでやろうな」とか、そ  
んなことを話しかけてくる馬鹿な  
輩が沢山いました。それが、ここ  
まで変わったのです。

地理的な環境の違いというのが  
あり、日本の場合は、朝鮮戦争に  
よる復興、そしてアメリカの武力  
の傘の中で、こういう社会を作っ  
てきました。ドイツの場合は戦後

分割されたので、東ドイツという  
国があり、そこからは、頻りに西  
ドイツの政治権力を担う人たちが  
かつてナチに於いて何をしていた  
かということ暴露されるんです。

第二次大戦後のアデナウアー政権  
というのは、西ドイツ中心的な姿  
勢が強かったのですけれども、そ  
れが七十年代後半から大きく変  
わっていきます。その大きな力と  
なったのが、戦後世代がお父さん

お母さんに、「あなたたちは、あ  
の時代何をしていたの？」という  
問いかけでした。

もちろん、その親の世代も終わ  
り、「もう終わった、もう過去は  
いいじゃないか」という動きもあ  
るけれども、今もなお孫たちに  
よって、「あなたたちは何故、お  
爺ちゃん、お婆ちゃんと戦争の間  
題をきちんと話してこなかった  
の」という問いかけが行われてい  
ます。ドイツでは、過去の戦争に  
関わる色々な施設が教育施設とし  
て保存されております。

また、ポーランドとの間でも共  
通の教科書を作ろうとかいったこ  
とも行われています。七十年の日  
本とドイツの歩んだ道の差とい  
うのは、ずっと開き続けてきました。

### 日本という国

今、シリアから沢山の難民がド  
イツへと逃れています。日本とい  
う国は、ベトナム戦争で稼いだけ  
れども、当時のベトナム難民をほ  
んど受け入れなかった。かつて

自分たちが散々収奪した韓国、朝  
鮮の人たちでも、ここまで排除し  
てきた社会です。けれどもドイツ

## ブライトホール

- 北ブライトホール [堀川紫明]
- 山科ブライトホール [五条外環]
- 中央ブライトホール [五条東山]
- 烏丸ブライトホール [烏丸高辻]
- 南ブライトホール [油小路通八条]
- 向島宇治ブライトホール [宇治榎島]
- 西ブライトホール [五条西大路]
- 大津ブライトホール [大津駅南]

本 社 / 京都市中京区烏丸通六角上ル

☎ 0120-004-200  🔍 検索

## お葬式 家族葬

# 公益社

は、多くの出費になるにもかかわらず、難民を受け入れるということとを強固にやっております。だから、隣国のポーランドやフランスなどから、ドイツは変わったという信頼を得られているわけです。翻って、日本に戦争を反省する研究所が一つとしてあるでしょうか。中曽根政権のときに、京都に国際日本文化センターが設置されました。

あれは戦争を反省する近現代の研究所ではなく、逆に日本の文化は古代から近世まで世界的に優れていたということを称揚するための研究所となっています。

### 『生きてゐる兵隊』

戦争はどんなものとして見えているのでしょうか。

多くの若い人たちに戦争について訊くと、北朝鮮のミサイルの問題とか、中国の軍備の強化の問題、そういう形で捉えられています。敗戦のとき、あるいは戦争中に、日本の多くの市民が体験していた



戦争は、そんなものではなかったのです。

石川達三の『生きてゐる兵隊』という小説があります。ここには片山玄澄という従軍僧が出てきます。従軍僧ですから、銃を持っているわけではありません。

『片山玄澄は左の手首に数珠を巻き右手には工兵の持つシヨベルを握っていた。そして皺枯れ声をふりあげながら露路から露路と逃げる敵兵を追って兵隊と一緒に駆け廻った。敵兵もこの街の案内は知らなかった。支那市街には至るところに露路があり袋小路がある。袋小路に追いつめると敵は武器をすてて民家にとびこみ制服をかなぐり捨てて住民の平服を着て

しまう。だが、脱ぎ捨てた制服を処分する暇はなかった。「貴様！」とだみ声で叫ぶなり従軍僧はシヨベルをもって横なぐりに叩きつけた。刃もつけていないのにシヨベルはざくりと頭の中に半分ばかりも喰いこみ血しぶきをあげてぶつ倒れた。「貴様！…貴様！」次々と叩き殺して行く彼の手首では数珠はからからと乾いた音をたてていた。(中略)

西沢部聯隊長から問われたことがあった。「従軍僧はなかなか勇敢に敵を殺すぞうだね」「はあ。そりゃあ殺ります」と彼は兵のように姿勢を正して答えた。「ふ



む。敵の戦死者はやはり一応申つてやるのかね」「いや、やつている従軍僧もあるようですが自分はやりません」「生きてるのは殺さなければなるまいが、戦死した兵は申つてやつてもいいだろうじゃないか」「はあ。しかし、自分はどうもそういう気持ちになれませんな。やつぱり戦友の仇だと思つて憎いですな」(中略)「しかしそれで君の宗教はどうなる？」玄澄は困惑して暫くだまつていたが、やがて顔を上げるとだみ声で答えた。「駄目ですな」隊長も副官も笑つた。隊長は顎の無精髭が痒ゆいと見えてがりがりと掻きながら独りごとのように言つた。「そうか、

国境を越えた宗教というものは無いか」それはむしろ憮然とした言葉であつた。』

この隊長は数千の捕虜を虐殺する決定をするには躊躇はなかつたけれども、しかし、従軍僧という立場の人は、せめて死者を申つてくれてもいいんじゃないかと

思つていた。という文章が続きま

す。これは上海から南京攻略をしたとき、石川達三が文学者派遣で戦地へ行つたのを元にして書いた小説です。当時、仏教の各宗派、例えば浄土真宗はお念仏を唱えたら大砲の玉が当たるとか、盛んに言つておりました。臨濟宗でも、戦争を煽るようなことは盛んにやつておりました。曹洞宗や臨濟宗は、「心を一つにして皇国のために尽くす」ことが臨濟禅、曹洞禅のものであると盛んに言つていたわけです。

### 『大義』

例えば、『大義』。これは有名な本ですが、ご存じでしょうか。「杉本五郎中佐遺書」という副題が付いています。

杉本五郎は広島出身の軍人で、この本は彼の死後、一九三八年に平凡社から出版されて、当時の中学生が貪るように読み、「大義の研究会」という読書会が行われた



う。そうです。一節を読んでみましょう。

「太陽を以て国旗となす、世界に君臨せらるべきは、天津日嗣の天皇にお在します」「天皇は世界のための者に非ず、世界こそ、天皇のために在するなり。」

「天皇の、世界に名実共に君臨し給ふは、何れの日ぞ。世界をして『祖国日本』と呼びしむるは、何れの日ぞ。」

彼は広島島の仏通寺に通い、当時の管長 山崎益州に熱心に参禅していたそうです。彼の無の境地はこうです。

「天皇の御意志は教育勅語に直

截簡明に示されある故に、教育勅語の御精神に合ふ如く、「私」を去りて行為すること、即ち日本人の道徳なり」「天皇の御ために死すること、是れ即ち道徳完成なり。此の理を換言すれば、天皇の御前には自己は「無」なりとの自覚なり。無なるが故に億兆は一体なり。」

こんな論理は、西田幾多郎の「絶対矛盾の自己同一」、日本の弁証法とでもいまいましようか、天皇に向かつて全てを集中し、自らが無になれば、そこに理想の世界がつけられると言うのです。これが当時の禅宗の一つの考えであつたわけです。

他にも例を挙げるならば、曹洞宗の高僧、安谷白雲は、こう書いています。

「大乘の菩薩たる仏弟子は第一不殺生戒の立場から、如何なる態度をとるべきものであるかといふのであります。これは大乘戒の精神が分つた人には、直ちに解答が

できる筈であります。それは勿論殺すのであります。大いに殺すのであります。大いに戦って、敵軍をみなごろしにするのであります。」

「何となれば慈悲心、孝順心を全うせんがためには、善を助け悪を罰しなければならぬ。ただし涙をのんで殺すのであります。そこに殺して殺さぬ道理があることを見逃してはならない。もし殺す悪人を殺さず、討つべき敵軍を討たなかったならば、かえって慈悲孝順に背くから、殺生戒を破つたことになるのであります。これが大乘戒の特色であります。」と。侵略と人殺しを「慈悲」と言い、殺すことが不殺生戒であるということ、曹洞宗の高僧は断言しているわけです。

同じく曹洞宗の高僧、澤木興道。彼は「殺しても殺さなくても不殺生、この不殺生戒は剣を揮う。この不殺生戒は爆弾を投げる。だからこの不殺生戒というものを参究しなければならぬ。この不殺生

戒というものを翻訳して、達磨はこれを自性靈妙と言った」と全集で述べています。

「慈悲の殺生は菩薩の万行に勝る」とか、「殺人即活人剣」、「悟りにおいては善悪不二」とか、こういった言葉は日本的弁証法の中で現代でも馴染になっております。その典型が、オウム真理教といえるでしょう。

### オウム真理教

オウムについては、既に死刑判決が全部下りましたから、麻原彰晃の死刑執行をいつするか、昨今のマスコミの話題になっております。(七月六日、処刑)

私は十数年前に麻原の精神鑑定をしましたけれども、あの人は変な関係があつて、私は一九九〇年代の初めに、オウムの、これも死刑になったんだけれども、弁護士を殺した早川紀代秀が、麻原との対談をセットして欲しいと大学に来ました。当時、私はオウムについて十分な知識がありません

でしたが、その時早川に向かつて、こう言つて対談を断りました。

「私は反社会的な教義を持つて、こう言つて対談を断りました。いる宗教でも、それを反社会的な教義だけで排除するという考えは持つておりません。しかし、あなた方の教団は、入るのは容易でも、疑いを持つて離脱しようとした人を容易に脱退させない。様々なトラブルを起こしている。そんな教団を市民社会における宗教と認めるわけにはいかない。」

今、麻原については、東京高等裁判所が滅茶苦茶なことをやつて、控訴審を認めないということ、判決を確定しております。

私の鑑定では拘禁反応というところで、人格的にかなり幼稚な人ですから、許されたい環境におかれて、小便垂れ流しで、ご飯も自分から食べない、昏迷状態になっています。受刑能力から考えると、昏迷状態にある人に縄をかけて吊るすということは、許されることではないでしょう。

話が脱線しましたが、あの事

件が起こったときにオウムで使われた言葉というのは、戦前戦中の日本の仏教が使つた言葉とほとんど同じだったので。新実智光被告、彼には八人目の死刑判決が出たのですが、彼は教祖への帰依を最後まで貫いて、いかなる反省、悔悟をも拒否。最後の判決のときに「一殺多生」と述べました。

「殺されたものは、最大多数の幸福のためのやむを得ぬ犠牲であつた。グル(教祖)の指示であれば、人を殺すことに喜びを感じることはできるのが、私の理想の境地である」と言っています。これを聞いたとき、日本の国民は皆、これは戦前の日本仏教が言つていた言葉そのものだなと、思わないといけなかったのです。

井上嘉浩という人は、洛南高校を卒業しています。洛南高校は真言宗の東寺の学校です。そういった人たちが一気に悟りを得て、そしてこの世を救うんだというオウムの考えの中に飛び込んでいきました。彼らだけではなく、多くの



医学部の学生がオウムに入って行きました。

## 医学教育の破綻

八十年代からの日本の医学界では、人間の全体性を見ないで、採血をして、検査値がどうこうとだけ言って、生化学の方に溺れていきました。オウム医師の姿は、日本の医学教育の破綻の表れだと私は思います。

最近、ベトナム戦争の研究書がいくつか出版され、深く知ることができるようになりました。ハーバード大学の経済学の教授だったマクナマラが国防長官になって、戦争を遂行していきます。マクナマラ理論では、ベトナムの兵士たちを順々に殺していったら、いかにも数学的な計算ですけれども、彼らもう戦えない限界が来る。そのため現地へ行つたひとりの兵士が、どれくらいベトナム兵を殺せるか。

一中隊のメンバーが、どれくらいベトナム兵を殺したか。それ

を精しく統計にとる。

兵士たちは、キルレイシオ（殺人比率）の証拠として、殺害した人の写真だとか、ベトナム兵の武器とかを持ってこないといけない。農村の子どもとかも全部、ベトナムのゲリラ兵であったとかたまたまで報告していくということをやって、あつという間にキルレイシオが上がっていきました。数字が非常に上がっていくのに、ベトナムの抵抗は何も減らない。こうして、マクナマラの戦争理論は破綻した。こんなこともベトナム戦争中は、日本ではあまり知られていなかったことです。

皆さんは阪神・淡路大震災から東北の大震災で、精神的な外傷後ストレス障害（PTSD）という概念をマスコミが急激に広げただけ、それに親しくなっていると思えます。これは一九八〇年代のアメリカの精神医学会が、ベトナム戦争から帰ってきた兵士たちに保険を適用するために作った概念です。これは明らかに、アメリカと

いう戦争国家の戦争遂行用の概念だったのです。

マクナマラによって、アメリカはベトナム戦争で三六五日戦争をやりました。戦場に行った人は、精神的に非常に不安定になります。精神安定剤、睡眠導入剤、抗うつ剤、それをガバガバ飲みながら、多くの人が自殺していったわけです。イラク戦争でも、戦争から帰った兵士の統計が出ていますけれども、二〇パーセント近くが自殺しているというデータが出ています。あるいは、イラクの戦争に行った日本の自衛隊員にも五十何人か自殺者が出ています。

戦争に行つて人殺しをした人が、精神的に傷つくというのは、何かおかしいと思いませんか。アメリカ精神医学は、決して殺される側の人のことを思っていない。ベトナム戦争であれぐらい残酷なことをやったんだけれども、アメリカ社会とかアメリカ精神医学は、ベトナム人で傷ついた人のことについて

研究は、まったく行っておりません。しかし、アメリカの医学会は、何の手当も研究もしていません。逆に侵攻した兵士についてのみ、問題にしている。

そんなPTSDの概念の歴史も知らず、阪神・淡路大震災でPTSD、心の傷というのはファクションになりました。

私は沖縄の調査も行きましたし、その近くのハミで、韓国の海兵隊（青龍）が二百人近く虐殺しています。韓国の海兵隊は二、三週間パンを与えて住民を安心させておいて、そして朝、突然行って大虐殺をやっているわけです。

そういったことをやっても、殺された側の人たちがどれくらい傷ついて、その後の遺族がどんな精神状態になるかということについては、全然研究していないのです。

アメリカという戦争国家が、戦争遂行用につくった概念を、日本の社会は唯々諾々と受入れて、それを災害で心が傷つきますという、

いい加減なことを言っています。

私も、日中戦争時代に（韓国なんかの比ではありません）、中国で性奴隷になった沢山の慰安婦たちの診察をしたり、重慶の爆撃の被害者の鑑定をしたりしてきました。

それ故に、およそ加害者の持っている精神状態と被害者のそれをひっくり返して、心の傷なんてことを平気で言うということは、私はとても了解できません。

東京でいろいろな空襲で傷ついた人を、私たちの社会はいまだに何の補償もしていません。東京大空襲で十万以上の人が三月十日に焼き殺されました。東京大空襲で亡くなった十数万の人たちの慰霊の場所をつくっていないです。

関東大震災の慰霊の場所は国技館の横にあります。受忍論という言葉が裁判判決で言われました。国民が等しく戦争で苦しんだのだから、空襲の被害者だけ特別扱いできないというのが、日本の司法の見解であります。軍人は、軍人恩

給で厚遇しておいてです。

その都度日本的弁証法とか言って、矛盾したことも全部同じだと。絶対矛盾の自己同一とか、殺人剣即活人剣とか、そういったことを言って、二つ違うものをじつと見ていたら一つに見えるといった論理が使われている限り、社会は前に進んで行くことはなかなか難しいのではないのでしょうか。

### 『夜と霧』

私はウイーンで『夜と霧』を書いたヴィクトール・フランクルと過ごしたことがあります。彼は「ナチに関わった人間を、いつまでも許さない」といってはいいけない。しかし、戦争犯罪とかナチの思想を容認した人たちは、少なくともみんなの前で自分が何をしたのか、その反省を言うこととしなければなりません」と言っておりました。

悲しむということは、人間が生きて社会を作っていくのに、最も

大切な精神です。悲しみというのは、他の生命との関わりを持ちながら、私たちが生きていることを自覚することでしょう。

人を殺す、国家の戦争ですることとはレベルが違うんだと割り切って、そしてそれは防衛のためだからやむを得ないというかたちで飛躍させて、思考を停止している限り、私たちは生きていくための思考を統合していくことが、難しくなっていくと思います。

最後に、戦争と防衛の問題を考えるとき、ドイツの軍備に対して、プロテスタントのボンヘッファーが言っていた言葉を紹介したいと思います。

ボンヘッファーはプロテスタントでありながらヒトラーの暗殺計画に関わりました。あれほどの虐殺について、殺人をもつて抵抗するということに関わった人です。まだナチがそれほど強くないとき一九三四年の言葉です。

「安全の道を通って平和に至る道は存在しない。なぜなら、平和

は敢えてしなければならぬこと

であり、それはひとつの偉大な冒険であるからだ。それは、決して安全保障の道ではない。平和は安全保障の道ではない。平和は安全保障の反対である。安全を求めるということは、相手に対する不信感を持っているということである。そしてこの不信感が再び戦争を引き起こすのである。安全を求めるというのは、自分自身を守りたいということである。平和とは、まったく神のいさめにすべてを委ねて、安全を求めないということであり、信仰と服従において、諸民族の歴史を全能の神の御手の中に置くことであり、自分を中心とした考え方によって、諸民族の運命を左右しようとは思わないことである。

武器を持つてする戦いには勝利はない。神と共なる戦いのみが勝利を収める。それが十字架への道に導くところでも、なお勝利はそこにある」と言っています。

これは、キリスト教の言葉でもって語られていますが、私たち

日本国憲法前文の思想そのものでもありません。

### 努めるべき戦争反省の姿

日本の対中国、アジアの戦争で二千万を超えるアジアの人を殺しましたし、日本国民も三百何十万の人たちが死んでいきました。

いまや、一九九〇年代から、安全と安心というインチキな言葉が、平気でセットになって言われています。「安心」というのは、もともと仏教用語の安心(あんじん)ですから、自分の心の平和を言っているわけです。決して「安心」と「安全」を混ぜあわせて使うべきではありません。

仏教教団も軍部によってさせられた戦争ということで、七〇年前、八〇年前の遠くに置くことではなく、日々、そういった過去の論理が、私たちの日常に浸透しながらいまも生きているということに気づくことが、戦争に対する一つの現在の反省ではないでしょうか。最近の問題では、先ほども言った

ように、心の傷だとか、PTSDだとか、そういった言葉に踊らされないで、問いなおすことも一つの戦争反省だと思います。

臨床宗教師の名称もやはり言葉のトリックです、各教団はきちんと自分の考える人間としての生き方、社会のあり方について説くべきです。

臨済宗の花園大学は、臨床宗教師講座という訳のわからない講座を設けて、学生集めを行っています。このような論理が、結局戦争を引きずっていったということではないでしょうか。スピリチュアルケアだとか、そういうかたちのものはすべてそうです。

知識層、あるいは宗教者の疑わしい動きに対して、きちんと問題をとらえて、警鐘を鳴らす発言していくということが、今日的な戦後七〇年たった時点での、私たちが努めなければならない戦争反省だと思えます。

### 野田 正彰氏 略歴 (のだ まさあき)

一九四四年、高知県生まれ。一九六九年、北海道大学医学部卒業。長浜赤十字病院精神科部長、神戸市外国語大学教授などを経て、二〇〇四年度より関西学院大学教授。二〇一二年、同定年退職。専攻は比較文化精神医学。

#### ■主な著書

『コンピュータ新人類の研究』(文藝春秋一九八七、大宅壮一ノンフィクション賞)  
『喪の途上にて―大事故遺族の悲哀の研究』  
①岩波書店、一九九二、講談社ノンフィクション賞

『災害救援』(岩波新書、一九九五)

『戦争と罪責』(岩波書店、一九九八)

『犯罪と精神医療』(岩波現代文庫、二〇〇一)

『陳真―戦争と平和の旅路』(岩波書店、二〇〇四)

『なぜ怒らないのか』(みすず書房、二〇〇五)

『虜囚の記憶』(みすず書房、二〇〇九)



大本山妙心寺御用達  
臨済宗法衣仏具調進所

## 澤野法衣店

〒615-8238 京都市西京区山田車塚町15-81  
電話 京都 (075) 392-6181番  
FAX (075) 391-6181



東京暮らし四十年から山里に  
 浜松市の北にある山里、から  
 やってまいりました。ここから  
 五十キロ離れています。クルマで  
 一時間半かかります。春野町は十  
 年前に浜松と合併しました。かな  
 りの過疎地です。人口は五十年代  
 の人口の三分の一。この十年で二  
 割以上も減っています。廃校は二

平成29年度  
 研修会

お寺と人々をつなぐ  
 『きつかけ』づくり

NPO法人楽舎代表

池 谷

啓 氏

時／平成二十九年十一月二十一日(火)  
 於／ホテルグランパレス浜松

つありました。かつて栄えた林業  
 やお茶もふるいません。軒並み、  
 店も閉じています。出会う人のほ  
 とんどは高齢者です。

そんな山里に移住したのは、七  
 年前。四十年間、東京暮らしをし  
 ていました。けれども、このまま  
 ずっと東京暮らしでは息が詰まる。  
 これ以上、東京にいても、お金ば  
 かりかかって晩年はたいへんにな  
 りそう……。

ということで、田舎暮らしを思  
 いました。フリーランスで編  
 集の仕事をしていたので、会社に  
 通う必要はありません。田舎を  
 ベースにして、ときどきインドや  
 バリ島に出かけて、のんびり暮ら  
 そうと思ったのです。

さて田舎といっても、どこがい  
 いのか……。まったくアテがあり

ません。やはり適度に都会に近い  
 ほうがいい。山があつて温泉があ  
 る。海にも近いほうがいい。雪は  
 降らない所がいい。そんな思いで  
 適当に探していました。

まずは、八ヶ岳のふもとのあた  
 り、信州の安曇野。温暖で海も温  
 泉もある西伊豆、千葉の房総など。  
 みんないいところですが。でも残念  
 ながら、どこの物件も高額で手が  
 出ません。

「春野町」というひらめき

そんなとき、「そうだ。浜松の  
 山奥がいいかもしれない」とひら  
 めきました。「春野町ってどうだ  
 ろう。名前がいい。山の中だし清  
 流もある」。ということで、探し  
 たわけです。

なんとか手がでる価格帯でした。

フリーダイヤル 0120-86-2779

仏壇・位牌・寺院用具・仏教美術品

ぬしや仏具店



浜松市浜北区貴布祢504-7 www.nushiya.net

ぬしや工房

お仏壇・ご本尊・仏具・家具調度品の塗替え、修復  
 お見積り無料 ご一報ください

土地付きの家は、敷地が千七百坪もありました。栗の木も五十本あります。あまり先のことには考えずにきめました。五十七歳のときです。

はじめての山里暮らしは、おもしろいことばかりでした。焚き火、ドラム缶風呂、石窯でピザを焼いたり、炭焼き窯をつくったり、家でコンサートを開いたり。そんなことを楽しんでおりました。でも、草刈りしたいへん、鹿や猪もでる。集落との付き合いも都会のようにはいかない。いろいろとたいへんということが、あとからわかってくるわけですけれども……。

田舎に住むなら、田んぼもやってみたい。お米作りに挑戦しました。山里は高齢のために耕作放棄地がたくさんあります。そこを借りて、仲間と無農薬の田んぼを始めました。どうせやるなら無農薬栽培、そして天日干しがいい。雑草対策は、鴨に食べてもらうというアイガモ農法もやりました。六百キロくらいのお米はとれました。しかし、収穫に至るまで手間は

かかります。沢から水を引く、田んぼの水漏れを防ぐなど土木作業もあります。トラクターや脱穀機など、機械もいる。出費ばかりがあつて、とても収益はあがりませ

ん。なにより気力・体力がいります。こういうことは、三年やってみて、身にしみてわかることでした。農業というのは、自分には難しい。とても収益は上がりつこないなあ。ということ、いまは田んぼや畑もしていますが、メインはやはり編集の仕事ということになりました。

### 仏教書と医学書の編集の仕事

本業は出版の仕事なので、山里でもできるわけです。出版社のやりとりは、電話とメール。印刷製本などは、ネットで手配します。韓国や南インド、青森県などで印刷してもらったこともありました。主に仏教書と医学書をつくっています。医学書は、たとえば「鍼灸療法技術ガイド」、理学療法や作業療法など医学の教科書の編集です。仏教書のほうは、お坊さん

や宗教評論家などの本。お寺の寺報づくりとか。

いい企画が浮かぶと出版社に企画提案します。「いいね、出しましょう」ということになる、原稿執筆、あるいはインタビュして原稿にします。

けれども、いまは本が売れない時代で、ラクではありません。たまには、ヒットすることもあります。この本（『死んだらおしまい、ではなかった』PHP社）は、十五万部も売れました。

二千件もの葬儀を経験したお坊さんの実話です。葬儀を重ねるうちに、亡くなった人の存在を感じていきます。その内容を一つひとつ記録していったものです。

死んでも「無」にはならない。「本人」というものは死んでも「ある」。葬儀の本質は、遺族が故人を偲ぶところにある。遺族の心こそが故人に伝わる。そのために、お坊さんはお経をよみ、場の空気を整え、遺族の心を鎮める、と。そんな内容です。この本は、東北震災の

後に、口コミで少しずつ売れてきました。

それから、アメリカからの流れで、いま「マインドフルネス」という言葉が広まっています。じつはブッダの瞑想こそが、マインドフルネス。ヴィパッサナー（心を観じる）である。そうした南方仏教の本もつくらせてもらいました。こちらは六万部が売れました。

また、吉野の修験道の本山、金峯山寺の本尊である蔵王権現の本、奈良の信貴山の本尊である毘沙門天の本。両親の供養のために思いをまとめたものを出したい、というお坊さんの本も作らせてもらいました。

### 山里への定住促進の事業

ところで、「池谷が田舎に越したという。どんな所か見てやろう」と東京の友人たちが訪ねてきました。あちこち案内すると、「こんな田舎に暮らしてみたい」と言います。山里は空き家が多いです。うちの犬の散歩に歩く範囲だけで



も三十軒くらいはあります。まあ、貸してくれるかどうかは、難しいのですが。

「そうだ、こうした空き家を田舎暮らししたい人につないでいけばいい。山里にも活気が出る」。そう思いました。

東京だとアパートの家賃は十万円くらいします。それでは、家賃のために働くというようなことになりません。山里に暮らせば、数千円で空き家が借りられたり、夕夕でもいい、なんてところもある。家賃分は働く必要がなくなります。

時間が生まれます。その分は、木工をやったり田んぼをやったり、創作活動をすればいい。フェイスクックなどを活用すれば、山里にいても、全国、世界に友人はできます。

なにより山里は、自然の豊かな資源の宝庫です。耕作放棄地、山林、放置竹林、流木、お茶、たくさんあります。田んぼも、お茶も、林業もできます。そんな暮らしの提案をしていきました。

そんなところから、「春野に住んでみたい」という人たちが増えてきました、この五、六年の間に移住相談は二百件以上、十組十五人の人が移住してくれました。

### 人と暮らしの魅力を発信する

まあしかし、移住というのは、やはりたいへんです。空き家があるからというだけでは、移住は難しい。なにしろその土地の人の付き合いがある、集落のしきたりがある。店も診療所も少ない。保育所や学童保育もない。やはり不

便です。そのあたりの山里の魅力とたいへんさ、不便さ、どんな暮らしがあるのか、どんな人たちがいるのか、というところを発信しています。私のような下素人が山里で田んぼをやる、大豆をつくる、ブルーベリー、栗を育てる。地域のつきあいもある。そんな田舎暮らしの失敗例、たいへんさ、楽しさ、手応えを伝えたりしています。

ポイントとは、山里で暮らす人たちの生き方を伝えること。それが、山里の魅力発信になり、まちなかとの交流促進になるのだと思っています。

そんな活動を継続してやってみようということで、NPO法人(楽舎)も立ち上げました。

山里には素敵な暮らしをしている人、達人のような方がいます。

たとえば手仕事人です。地域に伝承された和紙づくり、鍛冶屋、竹細工など五十年も六十年も続けている方がおられます。山繭を飼育して織物にしている方もいます。

また、間伐材を谷底から引き上

げて製材して家を二棟もつくった人、ホームセンターの材料だけで、四棟もつくったという人。天竜川の河原の石に猫を描いて生計を立てている人、気田川でカヤック遊びをおしえる人。ひょうたんを加工して美しいランプを作る人。いろいろな人がいます。都会ではなかなか出会えない人たちばかりです。

そうした人たちの魅力を伝えていこうということで、「こんなにアートの山に暮らし」というテーマで、まちなかでトークイベントを企画しました。さらには、山里に出かけてみませんかということ、「北遠山里めぐり」として、山里の暮らしを訪ねて、交流するという企画もしました。

まちなかの人たちは、山里に行きたいと思っても、なかなか「きっかけ」がありません。

こうした催しを通して、山里の暮らしに接する機会があれば、次から訪ねやすいものです。「行きつけの田舎」になってもらえたい。山里の人も、まちなかから遊

びに来てくれるのはうれしい。交流が生まれます。

景色がいいというだけではなく、そこにおもしろい人がいる、創造的な暮らしがある人と出会うことで、また山里を訪ねたくなる。こうして、点と点が結ばれるということになります。

### 「神社・寺カフェ」を始める

そんななかで、今度は、お寺と神社と、人々をつなげてみようと思いたちました。

浜松には五百近いお寺があります。そこには、広大な敷地があり、広い本堂があり、仏像があり、仏教の教えがあり、実践のあり方も伝えているわけです。

ところが一般の人のお寺さんとの出会いは、お葬式や法事の時以外ほとんどありません。お坊さんの暮らしぶりもみえてきません。檀家以外の方がお寺を訪ねる機会と

いうのは、とても少ない。和尚さんは、どんな人なんだろう。我が家の宗旨は、どんな教え

なんだろう。そうした思いがあったら、お寺を訪ねてみようという発想はないんですね。「なにか御用ですか」と聞かれそうだし、お寺は敷居が高いわけです。お寺のほうでも、無目的にふらっと訪ねてこられても、やはり困ると思います。でも、お寺がいまのままではもったいないなあと、かねがね思っていました。

そこで、人々とお寺をつなぐ「きっかけづくり」を試みよう。お寺のほうも、一般の人とつながりたという気持ちがあると思います。そこをつなげていけばいい、ということでした。

タイトルは「神社・寺カフェ」としました。「カフェ」というのは、気軽に寄り集まるという意味で名づけました。それぞれの寺社が独自の企画、日程で行います。その日は、住職がちゃんと来訪者の応対をしてくる。訪ねる人は、アポは必要ない。費用もかからない。気兼ねなく自由に訪ねられるわけです。この企画を浜松市に提案しました。

「みんなのはままつ創造プロジェクト」という文化事業に採択していただいて、スタートすることにまりました。

### さまざまなお寺の企画

苦労したのは、参加してくれるお寺をさがすことです。そもそもなんのツテもないわけです。インターネットでさがしながら、いきなり電話します。なにかの営業と思われて、「けんもほろろ」ということもありました。でも、そのうち「それはいいね。ぜひ参加したい」というお寺も現れてきます。そこから、また次のお寺を紹介してもらいながら、すこしずつ増えていきました。

「うちの寺は見るものもない。何をやったらいいのかわからない」とも言われました。

「いや、いっぱい素材があるじゃないですか。お経を教えてもいいし、仏事法事の相談とか。縁側で語りあうだけでも、みなさん喜びますよ」と伝えました。

一般の人にとっては、お寺を訪ねて和尚と話ができるというのは、滅多にない体験ですから、嬉しいものです。また、菩提寺に聞きにくいことなど、聞きたいという人もいます。坐禅や念仏も、体験してみたいという人もいます。

というわけで、三十余の神社とお寺に参加してもらうことができました。

お寺ごとに、日にも企画も異なります。たとえば、仏教の「実践としての行」です。木魚を叩いて念仏（法林寺）、お題目（日本山妙法寺、妙恩寺、妙雲寺、正晨寺）、護摩（長楽寺、遠州信貴山）、阿字観（頭陀寺）、坐禅会（栄林寺、玖延寺、長光寺、祥光寺、盛福寺、龍雲寺）。

さらには、奥の院の参拝と登山（秋葉寺）、お守りをつくっての祈願（妙恩寺）など。

そして「法話」です。精進料理のお話（栄林寺）、白隠禅師の軟酥の法と死後のこと（泰月院）、仏事相談（龍谷寺、龍雲寺）、地

域防災拠点としてのお寺(成金寺)、お茶を飲んでの語らい(永源寺)など。

そして、「文化的な催し」です。ステイールパンのコンサート(大昌寺)、蒔絵や土人形の展示と盆栽展(永福寺)、仏画と写経(長楽寺)。短歌・俳句・都々逸の講座(正農寺)。棺桶に入つて死を体験する(西福寺)など。

神社では、古代の神話のデジタル紙芝居、神道式の礼法、作法(貴船神社、浜名総社、初生衣神社)。青崩峠や千三百年も続く西浦田衆の話(足神神社)など。

### きつかけから流れ起きる

「仏教とは」などと、とくに構えなくても、座卓を囲んでお話ししましょう、というあたりがラクだし、好評なようでした。訪ねるみなさんは、やはり自分のことを語りたいですね。聞いてもらいたい。そういう場を提供するには、お寺はもつとも適しているのかもしれない。

これをきつかけに、あるお寺では、お寺の整備や草刈りの手伝いをしたい、という人が現れるようになりまし。寄付されたオルガンでコンサートを企画したら、予想外の参加者があつた。医大でがん患者の集いの講師に来てもらいたいという話がきました。

また、こんな話もありました。妻が病で倒れてつらくて仕方がない。思いきり泣ける場所がほしい。「そうだ、寺カフェで訪ねたあのお寺にいこう」。そんなことで、毎日、本堂に通つてきて泣いていた。そんな話も聞きました。

私のやることは、「きつかけ」づくりでしかありません。お寺と人々が交流するお手伝いです。できれば、浜松だけではなく、遠州全域にも展開していきたいものです。全国でこういう動きが起これば、すばらしい。

ただ苦勞するのは、経費です。パンフレットの印刷代など、いろいろ経費もかかるので、助成金で賄うことにしました。一年目は浜松

市の文化振興課。二年目は浜松まちづくり公社、三年目は浜松市文化振興財団の助成事業に採択していただき、続けてきました。しかし、なかなか継続は難しいものです。さて来年は、どうしようかと試行錯誤しているところです。

### 看とりとおくりの講座

いますすめているのは、「納得のいく看とりとおくりを考えよう」という講座です。浜松市の文化事業に採択されて、春から講座と集いを開催します。

仏教はもちろんですが、他の宗教ではどうなんだろうか。キリスト教、神道、ヒンドゥー教の人にも話をしてもらいます。

親しい人の看とりおくりは、とても重大なことです。さらには、自分というものは必ず死ぬ。死を見据えていまを生きていく。自分はどういう死に方をしたいか。どうおくられたいか。そういうことを語り合う集いの場をつくつていこうと思います。

まあそのようなことで、あれこれと企画していますが、一言でいうと、「点と点を結ぶ」ということです。人と人の交流を企画しながら、おもしろいことをやらせてもらおうと思っています。

### 池谷 啓氏 略歴

(いけや けい)



昭和二十八年生まれ。浜松市出身。早稲田大学法学部卒。NPO法人楽舎(らくしゃ)理事長。いちりん堂代表(出版社)。東京暮らし四十年を経て、八年前、浜松の山里・春野町に移住。仏教書・医学書の編集をしながら、有機農業、山里への定住促進事業を行う。  
お寺と人々をつなぐ「神社・寺カフェ」ネットワーキング・「納得のいく看とりとおくり」講座の主宰。



神社・寺カフェ  
神も仏もめぐり話せて

2018年2月24日 - 3/31日



平成二十九年 度 托鉢義援金

(順不同・敬称略)

萬壽寺 一万円 巨閑窟老大師 大分県大分市(妙)
天授院 十万円 岫雲軒老大師 京都府京都市(妙)
平林寺 三万円 江楓室老大師 埼玉県新座市(妙)
臨濟寺 三万円 無底窟老大師 静岡県静岡市(妙)
方廣寺 三万円 大隱窟老大師 静岡県浜松市(方)
妙興寺 一万円 孤雲室老大師 愛知県一宮市(妙)

五万円

龍福寺 後藤大安 岐阜県加茂郡(妙)

三万円

龍雲寺 細川景一 東京都世田谷区(妙)

二万円

善勝寺 明見弘道 埼玉県鴻巣市(妙)

一万円

養徳院 横江桃國 京都府京都市(妙)
実相寺 巨島泰雄 静岡県浜松市(方)
蓮光寺 佐久間清人 静岡県沼津市(妙)
福壽院 荻須智善 京都府京都市(妙)
海福寺 城 良導 愛知県名古屋市(妙)
天福寺 鬼頭孝道 岐阜県土岐市(妙)
東雲寺 佐藤堪堂 愛知県名古屋市(妙)
禅台寺 田中義峰 岐阜県可児市(妙)
太清寺 田口宗純 愛知県春日井市(妙)
観音寺 森田宗鑑 愛知県名古屋市(妙)
元昌寺 上田宗演 岐阜県多治見市(妙)
仙龍寺 高橋虎秋 東京都文京区(妙)
玉林院 林 宏樹 長野県上野原市(妙)
興禅寺 藤井鉄久 静岡県掛川市(妙)
文永寺 野呂全法 愛知県江南市(妙)
観音寺 小関親洋 愛知県一宮市(妙)
大林寺 三浦泰道 岐阜県山県市(妙)
養源寺 山田元文 東京都文京区(妙)

五千円

願成寺 杉浦宗光 愛知県西尾市(妙)
善徳寺 遠藤玄昌 栃木県足利市(妙)
崇福寺 東海康道 岐阜県岐阜市(妙)
宜雲寺 西村寛城 東京都江東区(妙)

長興寺 吉田宏道 静岡県浜松市(方)
好徳寺 毛塚順康 静岡県浜松市(方)
宝珠院 片桐三之 静岡県浜松市(方)
多福寺 飯沼宗秀 岐阜県山県市(妙)
桃林寺 山本宗孝 岐阜県各務原市(妙)
耕雲寺 長嶋玄雄 静岡県静岡市(妙)
久林寺 大住拙道 静岡県静岡市(妙)
慶雲寺 大津正道 静岡県静岡市(妙)
宗栄寺 日坂宜祥 愛知県大山市(妙)
大儀寺 荻谷典昌 岐阜県可児市(妙)
永福寺 岩田尚喜 静岡県浜松市(妙)
長伝寺 安井一道 静岡県浜松市(方)
教蔵寺 矢島良演 大分県国東市(妙)
瑞應寺 伊藤寧浩 岐阜県羽島郡(妙)
広隣寺 松浦正淳 静岡県浜松市(方)
徳蓮院 井村道弘 三重県名張市曹達
西福寺 大雅清光 岐阜県可児市(妙)
龍泉寺 鈴木光雄 静岡県駿東郡(妙)
宝満寺 三谷正友 和歌山県田辺市(妙)
高源寺 菅井一磨 茨城県取手市(妙)
大耕寺 山本令良 静岡県浜松市(方)
乾徳寺 木下紹真 愛知県名古屋市(妙)
自保院 中林健道 静岡県浜松市(方)
光正寺 平林正諄 静岡県浜松市(方)
宝樹院 加藤泰裕 千葉県佐倉市(妙)
円通寺 水越浄円 千葉県佐倉市(妙)
専修寺 岸野亮哉 京都府京都市(妙)
秘在寺 武山清堂 静岡県静岡市(妙)
妙雲寺 加藤明徹 栃木県那須塩原市(妙)
浄慶寺 永田慈宏 愛知県一宮市(妙)
清寥院 大崎景山 愛知県一宮市(妙)
澤野法衣店 京都府京都市 広告企業
後藤新助法衣仏具店 京都府京都市 広告企業
(石)永田印刷 岐阜県美濃加茂市 広告企業

四千元

春城院 植木昭道 静岡県賀茂郡(妙)

三千元

隣松寺 徳山宗達 岐阜県不破郡(妙)
宝昌寺 道家明宗 岐阜県瑞浪市(妙)
中山寺 中山義彦 三重県伊勢市(妙)
喜福寺 伊東宗泰 栃木県足利市(妙)
明鏡寺 酒井宗博 岐阜県加茂郡(妙)
観音寺 伊東祖弘 岐阜県美濃加茂市(妙)
眞福寺 笠井正見 愛知県小牧市(妙)

二千元

高蔵寺 後藤信正 三重県伊勢市(妙)
新福寺 細川貞顕 静岡県浜松市(方)

一千元

龍泉院 川瀬智之 静岡県浜松市(方)
弘忍寺 倉地宗隆 静岡県浜松市(妙)
長福寺 國枝義昌 岐阜県掛妻郡(妙)
龍月院 青山亘有 岐阜県美濃加茂市(妙)
濟縁寺 吉田秀温 岐阜県各務原市(妙)

托鉢報告

平成二十九年十一月二十二日浜松市
高町半僧坊別院正福寺を会所にお借りして
九時半参集(会員・役員・縁者総勢五名)
十時より托鉢出向・帰山。

この度の托鉢に対し各方面から多大なるご援助、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。



清香苑ユニオンホール 心豊かな人生を創造する
UNION 日本ライオン まほろ
西可児 きずな おぶつだんの清香苑
365日24時間受付 0120-62-3171

## 浜松支部だより

薪流会浜松支部では、四月八日に浜松市浜北区平口の徳生寺において、恒例の花まつり法要を徳生寺住職安部良道師（弊会副会長兼浜松支部長）導師のもと厳修致しました。

また、月例行事となっている托鉢は、浜松市浜北区、東区、南区、西区の御寺院を会所に修行しており、昨年末には静岡新聞の愛の都市訪問へ托鉢金浄財から寄付させて頂きました。



寺院荘厳具・仏像・仏具・仏壇  
位牌調製 製造販売  
妙心寺派寺院御用達

真心で創る



竹内

株式  
会社

# 竹内佛具店

ねもと店  
〒507-0078

岐阜県多治見市高根町3-75-2(旧248号沿い)  
TEL (0572) 27-2204  
FAX (0572) 27-2204

ショールーム  
〒507-0833

岐阜県多治見市広小路3-28  
TEL (0572) 23-8746  
FAX (0572) 24-1008

御法衣・荘厳具・稚児貸衣裳

# 山田八郎法衣店

☎460-0011 名古屋市中区大須三丁目39-31  
電話 (052) 241-1817 FAX (052) 241-1834

## 平成29年度 会計決算報告

自平成29年1月1日～至平成29年12月31日

## 一 般 会 計

収入 3,619,839 円

支出 3,619,839 円

残高 0 円

## 平成29年度 一般会計報告

## 収 入

(単位・円)

項 目	予 算	決 算	比 較	備 考	前年度決算額
賛 助 金	500,000	360,000	▲140,000	正副総裁・顧問・参与	310,000
会 費	500,000	380,000	▲120,000	役員・会員	400,000
事業収入	500,000	302,961	▲197,000	色紙収益	3050,000
広告収入	600,000	450,000	▲150,000	会報広告掲載料	450,000
雑収入	10,000	166,349	156,349	預金利息・全日仏より活動支援金	1,661
繰越金	1,960,529	1,960,529	0		2,220,018
合 計	4,070,529	3,619,839	▲450,690		3,666,679

## 支 出

(単位・円)

項 目	予 算	決 算	比 較	備 考	前年度決算額
本 部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
浜 松 支 部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
事 務 費	350,000	313,950	▲36,050	要覧作成・事務用品 他	226,401
通 信 費	200,000	139,843	▲60,157	郵送料・宅配便 他	184,212
会 議 費	200,000	201,484	1,484	会所費 他	149,344
文 化 部	300,000	203,459	▲96,541	研修会	226,296
編 集 部	800,000	744,808	▲55,192	会報編集・発行	699,014
托 鉢 部	100,000	55,483	▲44,517	托鉢	17,683
慶 弔 費	20,000	103,200	83,200	実相寺賀儀・萬寿寺弔儀献花	20,000
交 際 費	100,000	83,200	▲16,800	中外日報・文化時報広告他	83,200
予 備 費	80,000	81,082	1,082	萬寿寺化縁	0
繰越金	1,900,529	1,593,330	307,199	次年度へ繰越	1,960,529
合 計	4,150,529	3,619,839	▲530,690		3,666,679

## 支援活動基金 2,850,000 円

(単位:円)

前年度繰越金	5,200,000
ネパール支援金へ	2,350,000
合 計	2,850,000

## ネパール支援活動会計

(単位:円)

収 入		支 出	
托鉢部より	400,000	仮設住宅支援	500,000
支援活動基金より	2,350,000	学校教室支援	2,350,000
28年度繰越金	530,000		
合 計	3,280,000	合 計	

残金 430,000円は、次年度に繰り越します。

## 会 計 監 査 報 告

平成 29 年 1 月 1 日より平成 29 年 12 月 31 日間の会計について、帳簿等証拠書類を照合致しましたところ、厳正且つ正確に処理されていますことを、認めましたのでここに報告申し上げます。

平成30年2月1日

監事 毛 塚 順 康

監事 戸 崎 知 則

お正月用色紙御案内

岫雲軒老大師揮毫色紙

(工芸印刷)

解説書・たとう紙付 (折込み済)  
ご好評頂いております総裁猊下揮  
毫の正月用色紙を本年も発売致し  
ます。

一枚 三三〇円 [送料別・税込]

(但し一般は四三〇円)

※寺院の方は五〇枚単位にて御願  
い致します。

(但し在家の方は十枚単位より  
受付致します。)

申込み先 (左記の二カ寺にて受け付けます)  
大雄寺

〒五〇九一〇三〇一

岐阜県加茂郡川辺町下麻生一九九八

TEL〇五七四一五三一五二〇

FAX〇五七四一五三一六九三



平成 30 年お正月色紙見本

徳生寺

〒四三四一〇〇四一

静岡県浜松市浜北区平口五四八

TEL〇五三一五八七一〇〇五

FAX〇五三一五八七一〇〇九

申込期日 平成三十年十月二十日〆切  
発 送 十一月末日頃

編集後記

『薪流』第二十七号、諸般の事情で  
発行が遅れましたことを伏してお詫  
び申し上げます。本号には禅文化研  
究所様の御厚意により『禅文化』平  
成三十年春号から大隠窟老大師追悼  
文を転載させて頂くことができました。  
西村恵信先生はじめ執筆者関係  
各位に篤く御礼申し上げます。又、  
野田正彰先生並びに池谷啓様にはお  
忙しい中、原稿校閲頂き、重ね重ね  
篤く御礼申し上げます。大隠窟老大  
師の遺影を毎日拝する度、室内で竹  
籠を構えた厳しい御姿で「それでは  
未だ未だ足りない！更に練り上げて  
くるように」と未熟者を叱咤くださ  
る声が聞こえるかのようです。

良 晋 九拜。

薪流会のホームページができました。

ぜひご覧ください。

<http://www.shinryukai.jp/>

“こころの豊かさ、こころのやすらぎ”が私たちの商品です。



メモリアルアートの大野屋

創業 昭和 14 年

お墓・お葬式・お仏壇のこと  
何でもご相談ください

通話無料 携帯からも OK

0120-02-8888 営業時間 / 9:00 から 20:00 (年中無休)

- |             |               |   |
|-------------|---------------|---|
| 本 社         | ☎03-6863-4111 | 〒163-0638 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル38F       |
| 関 西 支 社     | ☎0120-78-7777 | 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-11-4-1108 大阪駅前第四ビル11F |
| 京 都 営 業 所   | ☎0120-31-7777 | 〒600-8234 京都市下京区油小路通塩小路下ル南不動堂町3大道第一ビル 2F-A  |
| 北 大 阪 営 業 所 | ☎0120-30-7775 | 〒562-0027 大阪府箕面市石丸3-2-6                     |
| 南 大 阪 営 業 所 | ☎0120-61-3388 | 〒585-0041 大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分851               |
| 兵 庫 営 業 所   | ☎0120-70-0177 | 〒666-0033 兵庫県川西市栄町10-5 パルティ川西403            |
| 名 古 屋 支 店   | ☎0120-44-1888 | 〒470-0316 愛知県豊田市千鳥町梨ノ木258                   |

● ホームページ : <http://www.ohnoya.co.jp>

● フェイスブック : <https://www.facebook.com/ohnoya.kansai>